

## 《巻頭言》

## 第17回日本禁煙学会学術総会を終えて

第17回日本禁煙学会学術総会実行委員長、日本禁煙学会理事  
禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議会長

加濃 正人

オンデマンド配信とZoomディスカッションの  
組合せ

2023年10月28日～11月26日(当日ディスカッションは11月11日・12日)の日程で、第17回日本禁煙学会学術総会が盛況のうちに終了いたしましたことを報告させていただきます。今回は、昨年までの3回の学術総会とは異なり、あらかじめオンデマンド配信を実施した上で、当日のZoomミーティングでディスカッションのみを行う新しい形態を採用しました。これにより、十分なボリュームの講演や話題提供と、リアルタイムでのディスカッションを両立できました。また、当日Zoomディスカッションを映写するビューイング会場を設定しました。

## テーマと開催運営について

本総会のテーマは「禁煙推進の連携と協働」でした。このテーマは、禁煙活動の推進には多様な分野や組織間の緊密な連携と協働が不可欠であることを象徴しています。医療専門家だけでなく、教育専門家、法曹関係者、コミュニティリーダーなど、異なる背景を持つ参加者が一堂に会し、禁煙推進における共通の目標に向けて知識と経験を共有する機会となりました(図1)。

開催運営においては、日本禁煙学会を主催としながらも、禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議(以下神奈川会議)、および神奈川県医師会の共催のもと、3団体が密に連携して開催準備を進めて参りました。さまざまな方々の多大な協力をいただき、大きな齟齬なく開催できましたことを改めて御礼申し上げます。

## 2つの特別講演

本学術総会のハイライトは、ステファン・ロルニック氏(カーディフ大学名誉教授)による特別講

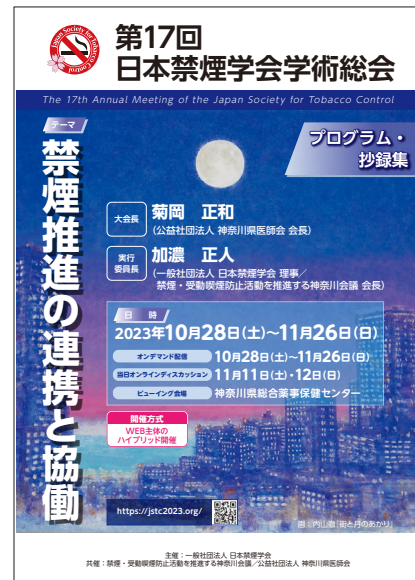


図1 抄録集表紙

<https://jstc2023.org/>

演「禁煙支援のための動機づけ面接」でした。氏は動機づけ面接の共同創始者であるとともに、動機づけ面接を健康行動支援の領域に適用する第一人者です。これまで国内の複数の団体が招聘を試み、諸般の事情から果たせなかったと聞き及んでいました。今回、動画での講演ではありましたが、それでも途中さまざまな困難があり、今でも実現できたことは奇跡に近かったと感じています。

また、松沢成文氏(参議院議員)による特別講演「神奈川県受動喫煙防止条例成立とその後」も、法整備と政策立案の観点からの禁煙推進に関する貴重な洞察を提供しました。

## 理事長講演と大会長指定講演

理事長講演では、作田理事長が国内外のタバコ対策を巡る情勢について解説しました。そのなかでも特に、受動喫煙による健康被害がWHO国際疾病分類第11版(ICD-11)に疾病定義されたことの

報告はインパクトがありました。大会長指定講演では、長谷章氏が、神奈川会議元会長である故中山脩郎氏の功績を中心に、地域に根差した禁煙推進活動の歴史とその成果について解説しました。

### 多彩な教育講演

教育講演1では、尾崎哲則氏が、禁煙を題材としたさまざまな講演における話し方の基本的なスキルに焦点を当てた講演を行いました。加藤公則氏による教育講演2「健診機関がオンライン禁煙外来をする意味」では、オンライン禁煙支援の新たな役割と可能性について提言が行われました。

Meet the Expertでは、川井治之氏が「日常診療における禁煙指導のポイント」と題し、禁煙指導の具体的な方法と、患者との効果的なコミュニケーション技術に焦点を当てました。up-to-dateセミナーでは、田淵貴大氏が、禁煙活動において新たな課題となっている新型タバコに関する最新の研究結果と対策についての議論を提供しました。

日本人生哲学感情心理学会共催セミナーでは、藤本祥和氏が「禁煙支援における価値観のトリセツ～促進とアップデート」と題して、禁煙支援における個々の価値観と動機づけの重要性について掘り下げました。このセミナーは、禁煙支援のアプローチを多角的に考える上で有益なものとなりました。

### ワークショップの概要

動機づけ面接ワークショップは、参加者がロルニック氏の特別講演を視聴していただいている前提で、その内容に即した演習やディスカッションを主体に行いました。参加者が動機づけ面接についての理解を深め、さらなるトレーニングに踏み出すための足がかりになりました。

鈴木隆宏氏による特別企画「禁煙化推進に誰でも活かせるAI(ChatGPT)」も大きな反響がありました。禁煙支援・禁煙推進活動におけるAIの応用に関するワークショップで、代表的な生成系AIであるChatGPTを用いた要望書の作製方法、禁煙支援の訓練に使える模擬患者の作成方法などが、実演を交えて共有されました(図2)。

### 新たな視点を提供したシンポジウム

特別シンポジウム「格差社会を克服する禁煙推進」では、喫煙と社会格差の相互作用を明らかにし

たうえで、ナッジやヘルスリテラシー教育の視点からさまざまな層に禁煙の機会を提供するための効果的なアプローチについて考察が行われました。エキスパートセッション「防煙教育アップグレード」では、健康教育の基盤となるライフスキルの概念を踏まえ、京都や熊本で行われている参加型防煙教育の実践が共有されました。

シンポジウム1「健診・保健指導と禁煙支援の連携」では、予防医療の枠組みの中で、より効果的に禁煙支援を提供する方法について洞察を深めました。COVID-19感染症の流行と喫煙の関連に焦点を当てたシンポジウム2「COVID-19感染症と喫煙、その総括」では、喫煙がCOVID-19に与える影響、特に喫煙者の感染リスクや重症化リスクについての最新の研究結果と臨床経験が共有されました。シンポジウム3「FCTC発効20周年を前に～実現したこととこれからの課題」は、たばこ規制枠組条約(FCTC)の発効20周年を控えて、その成果と今後の課題に焦点を当てたシンポジウムでした。受動喫煙防止、禁煙支援、価格、広告、CSR(企業の社会的責任)等の視点から禁煙推進の進展を振り返り、今後の政策と戦略の方向性について議論がなされました。

### 7部会のプログラム

心理学、薬剤師、ナース、母子保健、職場の禁

あなた
あなたはタバコをやめるつもりのない40歳の男性喫煙者です。職場の健康診断で医師から禁煙を勧められたとして、自然な応答をしてください。

ChatGPT
医師:「私たちの検査結果に基づいて、タバコをやめることを強くお勧めします。」
私(40歳の喫煙者):「医師のアドバイスに感謝しますが、正直に言うと、今のところタバコをやめるつもりはありません。喫煙は私の日常生活の一部で、それを変えるのは難しいです。もちろん、健康リスクは理解していますが、今はこの決断を下す準備ができていません。」

あなた
喫煙はあなたの日常生活の一部、一方で将来の健康への不安も少し感じておられて、変えることができたかなと思われることもあるんですね。

ChatGPT
はい、その通りです。喫煙が日常の一部となっているため、やめることは簡単ではありませんが、健康への影響については常に頭の片隅にあります。将来的な健康リスクを考えると、もし変更できたらと思うこともあります。ただ、それを実行に移すのは大きなステップですね。

図2 ChatGPT模擬患者による禁煙支援シミュレーション(実演とは別事例)

煙、食と栄養、歯科の7部会(委員会)では、それぞれ独自のプログラムを提供し、参加者に多角的な視点からの学びを提供しました。心理学部会セミナーでは、川合厚子氏のセミナーをもとに、精神科疾患を持つ患者への禁煙支援に特化した議論が行われました。薬剤師部会セミナーは、薬剤師による禁煙支援の役割とその実践に焦点を当てたセミナーで、薬剤師が行政と連携してどのように効果的に禁煙支援に関与できるかについての具体的な例が提示されました。ナースによる禁煙支援の重要性を探るナース部会セミナーでは、クリニックにおけるロールプレイ動画により治療連携についての一例が共有されるとともに、当日セッションでは禁煙支援ナースによる活発な議論と情報交換がなされました。

職場の禁煙部会セミナーでは、鈴木隆宏氏より、企業や組織が禁煙推進にどのように取り組むべきかについての具体的な指針やアプローチ方法が提供されました。母子保健部会シンポジウムは、妊娠中の女性への禁煙支援に焦点を当て、効果的な禁煙動機付けのアプローチについての知見が共有されました。食と栄養部会シンポジウムは、栄養学の専門家による禁煙支援の役割を探るシンポジウムで、禁煙と食生活の関係に焦点を当て、禁煙成功のための栄養指導の方法について深く掘り下げました。歯科部会シンポジウムにおいては、歯科衛生士による禁煙支援とその課題について議論が行われました。

### 繁田正子賞セッションと一般演題

合計34題の一般演題が集まり、繁田正子賞セッションと6つの一般演題セッションに分かれて活発な議論が行われました。当日セッションとして設定したディスカッションの枠に収まらず、エクストラZoomミーティングにてより発展的なディスカッ

ションが行われたセッションもありました。一般演題の発表は、事前提出のオンデマンド動画(8分間)を視聴いただいた上で、当日1分間のキースライドプレゼンテーションとディスカッションを行っていただきました。この方式は発表者にも参加者にもおおむね好評で、多くの方から満足のいく意見交換ができたとの感想をいただきました。一般演題より、繁田正子賞、草の根活動賞として各3演題が選ばれました。

### Web談話会とWeb懇親会

当日Zoomセッションの空き時間をWeb談話会会場として解放しました。この会場は各種プログラムのエクストラミーティング会場として活用され、参加者から高い評価を得ました。11月11日の夜には、Zoomミーティングのブレイクアウトルームを利用したWeb懇親会を実施しました。加熱式タバコ、動機づけ面接、近隣受動喫煙など合計15個のブレイクアウトルームを設定し、どの部屋も時間いっぱいまでさかんな議論と情報交換が行われました(表)。

### おわりに

会期を通じて789名もの方々にご参加いただきました。11月11日・12日の当日ディスカッションにも539名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。これらの数字は、禁煙推進に対する会員の熱意を示しています。

本学術総会の成功は、演者、座長、参加者、そして運営を支えたすべての関係者と関係団体のおかげです。深く感謝申し上げます。第18回禁煙学会学術総会は、2024年11月に鳥取県米子市で対面開催を予定しています。こちらにもご参加をよろしくお願い申し上げます。

表 Web懇親会のブレイクアウトルーム

|                     | ブレイクアウトルーム |           |           |           |           |
|---------------------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|                     | 1          | 2         | 3         | 4         | 5         |
| 18:00<br> <br>18:40 | 学校での禁煙推進   | 禁煙外来ことはじめ | ナースが集まる部屋 | 薬剤師が集まる部屋 | 禁煙CMコンテスト |
| 18:40<br> <br>19:20 | 公共の場の禁煙推進  | 動機づけ面接を学ぶ | 地域・行政での禁煙 | 禁煙補助薬Q&A  | フリートークの部屋 |
| 19:20<br> <br>20:00 | 近隣受動喫煙問題   | 認知行動療法とは? | 職域での禁煙推進  | 新型タバコについて | フリートークの部屋 |